

夏休みの最後の楽しみは・・・？

夏休みの終わりが見えてきましたが、夏の思い出はできましたか？

今年の夏休みは、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が広い範囲で適用され、これまでのように、旅行に行ったり、友達と遊んだりする機会が少なく、巣ごもりの夏休みを過ごされているのではないのでしょうか。残り少ない休み、自宅でも楽しめる科学に関する映画やサイバー展示について紹介したいと思います。

最近では、AmazonプライムやNetflixなど定額制の動画配信サービスも充実していますので、いつもは見ないような映画も気軽に楽しめるようになりました。巣ごもり需要で、動画配信サービスの利用率も上がっているようです。

ジュニア会員の皆さんは、科学や技術に興味・関心があるので、SF映画が好きなの人も多いと思います。近未来を描いたSF映画も、大変面白いのですが、今回、皆さんに紹介したいのは、科学史の映画2本です。

一つ目は、コンピュータサイエンス分野のノーベル賞といわれるチューリング賞の名前の由来となっている英国の数学者アラン・チューリングを描いた映画「イミテーション・ゲーム」です。

コロナ禍でオンライン授業が増え、コンピュータを使わない日はありませんね。このコンピュータの誕生に大きく貢献したのがアラン・チューリングです。チューリングは、1936年に「チューリングマシン」という理論上の機械を考案しました。チューリングマシンの概念は、現代のコンピュータと極めてよく似た構造であるため、チューリングは「コンピュータの原理を発明した」とも言われています。

チューリングは、チューリングマシンを考案しただけでなく、第2次世界大戦下において、ドイツ軍の世界最強の暗号「エニグマ」を解読したことも、大きな功績の一つです。映画は、暗号解読に挑む様子を中心に描かれています。チューリングの半生を描いた感動の実話です！

二つ目は、アメリカ初の電力送電システムを巡る歴史的なビジネスバトルを描いた「エジソンズ・ゲーム」です。

私たちの日常生活において、電気はなくてはならないものです。PCもスマートフォンもエアコンもすべて電気が必要で、電気が自宅に届かない生活は想像もつきません。この電気を送り届ける供給方式（直流か交流か）をめぐる、1880年代のアメリカで、主導権を争う「電流戦争」が起きました。天才発明家のエジソンは直流送電を中心としたシステムの構築を進め、カリスマ実業家のウェスティングハウスは交流送電を中心としたシステムを提案したことで、敵対しました。交流の仕組みを発明したのは、電気自動車メーカー・テスラの名前の由来ともなったニコラ・テスラであり、テスラは、ウェスティングハウスと組んで、エジソンと戦います。「エジソンズ・ゲーム」は、この「電流戦争」を描いています。素晴らしい発明を、いかに実用性のあるものにしていくか、将来、技術に携わる皆さんにとっては、大変勉強になる側面もあると思います。

映画だけでなく、家で科学に触れ合う方法として、バーチャル博物館があります。コロナ禍で多くの博物館がバーチャル展示を公開しています。代表的なものの一つとして、国立科学博物館の「おうちで体験!かはくVR」(<https://www.kahaku.go.jp/VR/>)があります。3DビューとVR映像がありますので、自宅にいながらも、臨場感を持って展示を鑑賞できます。既に、アクセスしたという人もいることと思います。

今回、ここで紹介したいのは、9月5日までの特別展である「Society5.0科学博」(<https://society5expo.jp/>)です。Society5.0は、このLINEの記事でも、何度も話題にあがっていますので、皆さんの理解も進んでいることと思います。この展示は、内閣府（科学技術・イノベーション推進事務局）と国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）で共同主催しており、東京スカイツリーでの会場展示とサイバー展示の両方で行われています。日本が思い描く「2030年の社会」を世界へ発信するもので、研究所、大学、企業の研究成果を見ることができます。サイバー展示では、展示会場の様子がエリアごとに動画で収められており、会場を独り占めして見学している気分を味わえます！

映画やサイバー展示は、全国のどこからでも楽しむことができます。紹介した映画、サイバー展示が、残り少ない夏休みの思い出の一つになればと思います。しかし、映画やサイバー展示は、刺激の一つでしかありません。皆さんが、これらの刺激から触発され、知的好奇心を満たすための活動に繋げて頂けたら嬉しく思います。それでは、残り少ない夏休みを楽しんでください！

（日本女子大学 小川賀代）

